

学校名	岩手県 紫波町立日詰小学校
担当教員名	

活動のテーマ	地域・保護者と防災について考えよう
主な教科領域等	教科領域（ 総合的な学習の時間 ）
アプローチ	※該当するものに□をつけてください（複数可） 地域連携 避難訓練・避難所運営 専門家の活用 体験学習 学校間・地域間交流 教科連携 地域発信 カリキュラム開発
活動に参加した児童生徒数	（ 5 学年 6 5 人）（複数可）
活動に携わった教員数	（ 6 ）人
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	（ 1 0 0 ）人 【保護者・地域住民・その他（ 防災士、協力者 ）】 ※児童生徒・教員以外で活動に参加する人の区分に□をつけ、人数をお書きください。（複数可）
実践期間	西暦 2 0 2 4 年 9 月 1 日 ～ 西暦 2 0 2 5 年 2 月 2 8 日
想定した災害	※該当するものに□をつけてください（複数可）。 地震 津波 台風 洪水 河川氾濫 土砂 その他（被災してガス・水道が使えない）

活動報告

1）活動の目的・ねらい

本校の教育目標の具現化のために、地域学習に力を入れており、その中で5年生は【環境・防災】をテーマにSDG s「気候変動に具体的な対策を」に迫っていく。具体的には、防災、減災教育（復興教育）において、児童が主体的に自分の身の回りの災害について調べ、考え、どのように行動するべきかをまとめ、他者に発信していく授業を組み立てていく。児童の主体的学びが、地域の未来を切り拓く力や地域と協働する力を育て、地域を守り、創造していく人材育成になると考える。

2）実践内容・実践の流れ・スケジュール（※図表等を使用して分かりやすく記述してもよい）

9月 4日

避難訓練（地震→火災想定）⇒休み時間に行い、自分で判断して避難する。

9月30日

紫波総合高校で実施された「防災食体験」に5年生が参加

10月19日

学習発表会 防災についての発表（4，6年、職員、地域の方々の鑑賞）

10月25日

5年親子行事 「防災食を体験しよう」

11月 5日

避難訓練（地震想定 放送機器使用不可の場合）

11月 9日

日詰商店街祭り（5年生20名程の参加）

・炊き出し体験（ひつつみ作り）

・防災クイズを地域の方に出題

・防災グッズの紹介

12月 3日

全校朝会 他の児童に向けて発信：防災についての提案（5年）

2月 6日

復興集会(4,5,6年参加) 釜石市立唐丹中学校元校長の講話と話し合い活動

3）9月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。

昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。

○学びから実践に生かしたこと

・地域との連携を密にした体験活動を行うこと（保護者、同地区の高校生、地域の方々）

○活動の変更・改善点

・同じ地区の高校生や地域の方々と一緒に体験活動ができた。

○昨年度と今年度の実践で変わった点

・体験活動の際の準備物の購入

・地域の人たちへの参加の呼びかけ

○助成金の活用で可能になったこと

・約200名の防災食体験

4) 実践の成果

①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

①伝え合う活動

- ・学習発表会(10/16 5年生の学習成果を校内で発表、10/19 保護者・民生委員に向けた発表)
- ・地域の商店街行事にきた地域の人に防災クイズを出題したり、防災グッズを紹介したりした。
- ・12月の全校朝会で、これまで学習してきたことを分かりやすく低学年にも紹介した。

②地域との連携

- ・「防災について学ぼう」…高校生と活動と一緒にいった。
- ・「防災食を体験しよう」…親子、地区長さんも招待して、学習会と体験をした。
- ・「日詰商店街祭りでの防災を伝える活動」
 - ・炊き出しを地域の方と一緒に作る。
 - ・ひつつみができるまでの間に、ひつつみを食事するために並んでいた人たちに、防災クイズを出題。さらに、自分たちで作った防災グッズも紹介。

②児童生徒にとって具体的にどのような学び(変容)があり、どのような力(資質・能力・態度)を身につけたか。

- | | | |
|---------------|---|--|
| ・多面的・総合的に考える力 | } | 地震から身を守る方法を知る。防災食を作る。緊急時の生活に必要な知識・技能を習得。 |
| ・自ら進んで参加する態度 | | |
| ・つながりを尊重する態度 | | |

③教師や保護者、地域、関係機関等(児童生徒以外)の視点から

- | | |
|----------|--|
| <教師・保護者> | ・自分が住む地域を大切にしていこうという気持ちを育むことができた。 |
| <地域> | ・小学生の学習にとどまらず、地域でも考えていかなければならないことを感じた。
・地域で防災について考えるきっかけとなった。 |
| <関係機関> | ・管内復興教育研修会において、同じ町内の小・中学校に発信できた。 |

5) 工夫した点、実践の特徴・特筆すべき点

- ・児童が高校生や地域の方、自衛隊の方々、防災士とのコミュニケーションをとったこと。
- ・学習や体験したことを生かして、児童自身が主体的に伝える活動の計画や活動を行ったこと。
- ・防災の三助の中の特に自助、共助の活動を通して、防災に対する意識が高まった。

6) 実践から得られた教訓や課題と次年度以降の実践の改善に向けた方策や展望

<教訓>

- ・災害の備えは毎日の生活を大切にすること(学び、人との関わり)
- ・地域と連携した活動を通じて、児童の主体性が高められること
- ・2月6日の復興集会の実施 → 防災意識を高める場となった。

<課題>

- ・総合的な学習の時間の年間計画の見直し
- ・他学年の防災意識を高めること

<実践の改善に向けた方策や展望>

- ・5年生の宿泊研修(6月5日、6日)を被災地の陸前高田市の学習をする。(復興記念館の活用)

7) その他(※特にあれば記述)

※写真や画像、補足資料などがある場合は添付してください。写真は別途元データ(JPEG)もご提供ください。



<高校生との交流>

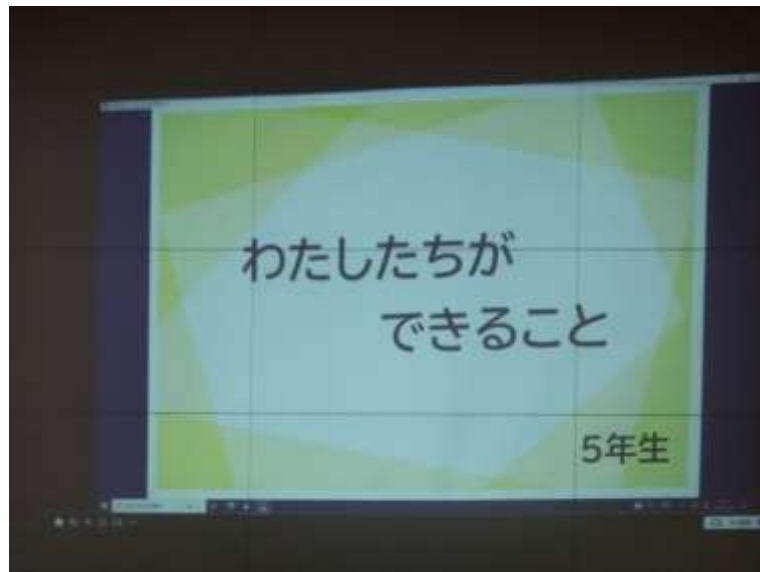


<炊き出し体験>



<商店街祭りでクイズの出題>

学習発表会



5年生の学習発表会

写真はオープニング。

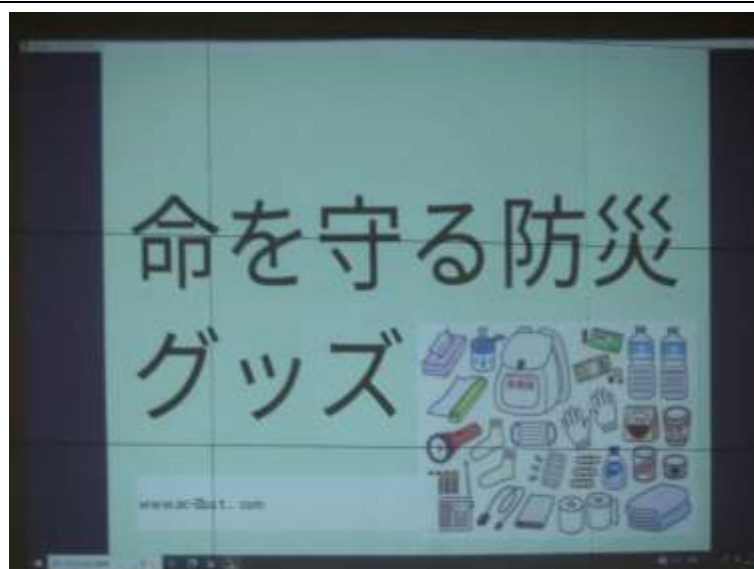
「わたしたちができること」のスライド



体験したことを通して、考えたことを伝える場面

セリフ

「9月30日、紫波総合高校で、災害時の食料についての学習をしました。」



家にあるもので防災グッズを作ることができることを紹介した後のまとめ。

セリフ

「このように、僕たちはこれまでの防災学習を通して、実際にひさいした時に、家にある物でも自分や家族の命を守る道具を手作りできることを学びました。」

◎発表に至るまでの流れ

企画 ・発表の流れを考える。	製作 ・パワーポイントのスライドをつくる。一人1枚担当 セリフも考える。	編集 ・発表内容ごとにチームを作り、チーム内で発表順序を考える。	練習 ・自分の担当したページを覚えて発表する。	発表会
-------------------	--	-------------------------------------	----------------------------	-----

◎セリフ(発表順)

- ・私たちは、花の虹タイムで自分たちが住んでいる日詰のことや災害にあったときどうするかを学んできました。
 - ・1学期は、景観学習ですてきな場所がたくさんあることに気付きました。
 - ・景観学習とは、日詰の好きな景観や気になる景観などを見つける学習です。
 - ・私は景観学習でこんな景観を見つけました。道路の上を歩くための歩道橋だけど、周りをみて歩くと、歩道橋の上から見た町の景色がきれいだと思います。
 - ・ぼくは景観学習でこんな景観を見つけました。昔ながらの景色に歴史を感じ、もっとたくさんの人に伝えていきたいと思いました。
 - ・私は、景観学習でこんな景観を見つけました。とても景色がよく紫波町の自然が感じられていいなと思いました。
 - ・ぼくは日詰はいい景観がいっぱいあって、いい街だなあと改めて思いました。そして、この景色を未来にも残していきたいと思いました。
 - ・日詰にはすてきな景観だけでなく、私達がこれからも守っていききたい場所がたくさんあります。
 - ・例えば日詰商店街はいろいろなお店がありとてもにぎやかなところです。よくイベントをやっているので楽しいです。
 - ・10月9日に見学した平井邸は、昔の歴史が感じられるすてきなところです。じょう造所では新しいジャンルのお酒をつくり、住居を生かしているいろいろなイベントや体験ができると知って、すごいと思いました。
 - ・親しみやすく、美味しい料理が食べれるお店もあります。藤屋食堂は、看板犬のミミーと触れ合える日詰商店街の魅力のお店です。
 - ・ぼくたちは、こんなすてきな日詰をこれからも守り大切にしていきたいです。そして、じぶんたちにできることで、貢献していきたいです。
 - ・しかし、こんなすてきな日詰の町が、いつもの活気を失ったことがあります。それは自然災害が起こったときです。
 - ・東日本大震災が起こったとき、ぼくはまだ生まれていませんでしたが、大きく揺れて、停電してしまい、大変だったと家族から聞きました。大きい地震は大変で、生活にも支障がでるんだなと思いました。
 - ・私のお母さんは一日一日の生活をするのに必死だったと言っていました。私は普段から油断しないで自然災害に備えたいと思いました。
 - ・9月に話を聞いた石川防災士さんは、平成27年の大雨によるひ害について教えてくれました。アンダーパスに水がたまり、通行止めになったことや、紫波総合体育館では石段よりも水が上がったことを聞きました。私は体育館の石段よりも水が上がる事は予想できなかったのも、ビックリしました。
 - ・私たちは、家族や防災士さんから話を聞くことで、自然災害のおそろしさを改めて感じました。自然災害は、いつ、どこで、起こるかわかりません。そして、防ぐことはできません。
 - ・でも、備えることでひ害を減らすことはできます。
 - ・私たちは、体験したことを通して、考えたことをみなさんに伝えます。
 - ・9月30日、紫波総合高校で、災害時の食料についての学習をしました。
 - ・災害になったとき、一番困ることは食べ物です。
 - ・お米があっても、停電になってしまうと、ごはんが食べられません。
 - ・そこで、私達は、卓上コンロでのご飯の炊き方を学習しました。
 - ・ぼくたちは、ガスコンロを使って、お米を炊きました。そこで、鍋やポリ袋での米の炊き方を知りました。
- 鍋では、電気を使わずに米を炊くことができます。電気を使わずに炊けるのは、すごいと思いました。ただ、時間がかかるのがデメリットです。
- ・アルファ米は、ポリ袋に米を入れて炊く方法で、鍋が汚れないし、何回でも水が使えます。アルファ米の方がいいと思いました。ただ、ポリ袋は、高密度ポリエチレンしか使えないのがデメリットです。
 - ・アルファ米は、再現度が高いので、いつもと少ししか変わらないご飯が食べられます。
 - ・フリーズドライご飯は、モチモチですごくおいしかったです。甘みがありました。やわらかくて、高齢者や小さな子供にも食べやすくいいと思いました。

・フリーズドライご飯は、水でもお湯でも、そのままでも食べられます。水を使わなくてもいいのはいいなと思いました。

- ・どちらも保存期間が長く、アルファ米は5年、フリーズドライご飯は7年です。災害はいつ起こるかわかりません。
- ・なので、非常食のことをよく考えてくれている食べ物だと思いました。食べるとき、水を節約する取り組みがありました。災害時、水は貴重品です。
- ・ラップを利用し、お皿の上にしました。紙皿を利用するより安く、水も節約できていいなと思いました。
- ・もしも、自然災害が起きた時のために、備えておきたいです。

・アルファ米とは、炊きたてごはんのおいしさをそのままに、急速乾燥したものです。生米に含まれるデンプンは、人間には消化しにくい「ベータ化」の状態です。これを加熱調理し、消化しやすい「アルファ化」の状態にして、急速乾燥しています。

・フリーズドライのメリットはふたつあります。軽量で長期保管が可能です。それから熱による大きな影響を受けないので、食材の色や風味、食感などが復元されやすい上にビタミンなどの栄養価が失われにくいです。

・デメリットは、店頭での取り扱いが少ないので、選択肢もあまり多くはありません。また、基本的にぬるま湯で水でふやかす必要があるため、食べるまでに時間がかかります。他の食品と比べてエネルギーコストが大きいのが、フリーズドライのデメリットです。

・アルファ米は炊きあがったご飯から水分だけをぬいたもので水分を足すだけで元通りのご飯にもどります。

・フリーズドライご飯は、ご飯をこおらせてから、真空に近い状態にして乾燥させたものです。

・僕たち、私たちのこの経験を生かしてこれからの災害に備えていきたいと思います。

・防災バックに入れておくといい物 「アイラップ」「防災食」「水2リットル×9本」「ラジオ」「皿」

・アイラップが必要な理由 災害の時の水は貴重なので、洗い物をなくすために、アイラップをかぶせます。

・防災食が必要な理由 人は3日も食べないと死んでしまいます。だからこそ、防災食を早めを買っておいたほうがいいです。

・水2リットル×9本が必要な理由 大体1日で水を一人3リットル位使うので、3日分あれば助かるかもしれないからです。

・ラジオが必要な理由 災害の時、電波がつかないから、ラジオを買っておいた方がいいです。

・皿が必要な理由 アイラップと組み合わせて使います。食べ物をのせるのにも使えます。

・私たちは、燃料やなべがないとき、ご飯をどうやって炊くか体験しました。

・サバ飯（サバイバル飯）の作り方

まず、アルミ缶の上部を切り取り、水と米を入れて20分ほど浸水させます。その間、牛乳パックを1cm以上に短冊切りして燃料を作ります。次に二つ目のアルミ缶の上部を切り取り、4か所に穴をあけ、重りの石を入れてコンロの完成です。マッチで火をつけ、5秒に1枚ずつ燃料を入れます。ふたのアルミホイルがボコボコしてきたら食べごろです。

・私たちの班は、高校生が楽しく教えてくれたので「サバイバルめし」を美味しく作れました。

・私たちの班は、ごはんが硬かったです。次もし作ることがあったら、風邪のないところでやったほうがいいと思いました。

・水を使わなくても食べられるフリーズドライのお米で作ったカレー味のついた防災食の試食もしました。一気にほおばると水が多すぎたカレーの味がしたけれど、味がうすいので小さい子でも食べることができて、災害時にはあった方がよいと思いました。

・炊き出し体験の後には、きりもみを使って火を起こす体験もしました。なかなか火がつかず、ほんとうにつらかったので、ガスコンロなどを準備したいと思いました。

・ぼくは、火起こし体験をしてみて、火がつかない人が多かったから、マッチなどを備えておいたほうがいいなと実感しました。

・ちなみに、この日は晴れたので炊き出し体験ができましたが、雨だったら家にあるもので防災グッズを作る「ライフハック」を学ぶ計画でした。今日は、その中から3つ紹介します。

・これは、簡単ランタンです。懐中電灯をペットボトルの下に置けばランタンの完成です。懐中電灯が小さい場合は、コップの中に懐中電灯を入れてペットボトルをかぶせるといいです。

・これは、紙食器です。地震などで、お皿や食器とかがない時に、新聞紙2～3枚ぐらいで作れます。時には、コップになったり、汁物を入れられたりして便利だと思います。

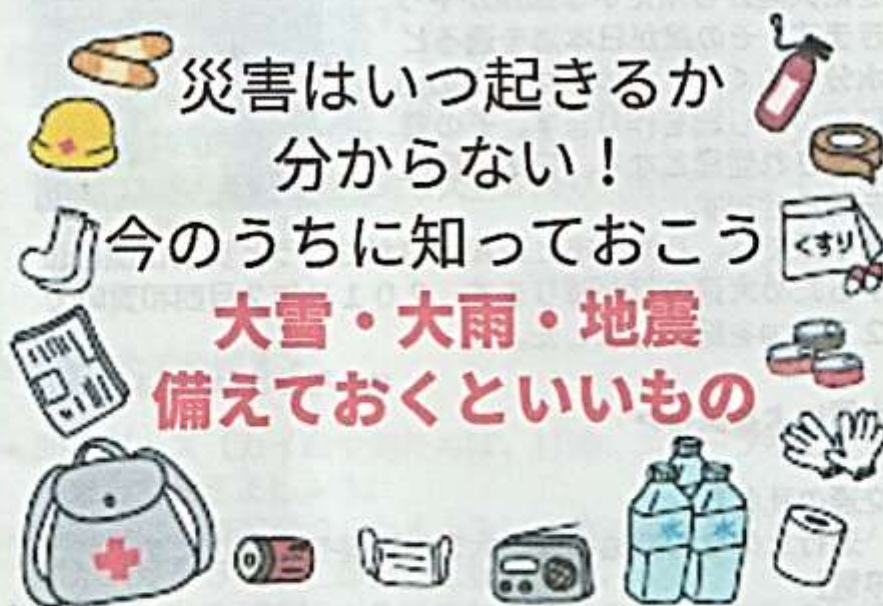
・これは新聞スリッパです。新聞紙を折って作ります。寒い時や少し移動するとき簡単にはけるので、便利です。

- ・私たちは、自衛隊の方に紹介された物のほかにも、「家にある物で作れる防災グッズ」を自分たちで調べました。
- ・私が見つけたのは、ペットボトルで作る湯たんぽです。作り方は、まず人肌より少し熱いくらいのぬるま湯を作ります。それをペットボトルの半分くらいまで入れて、ふたをしっかりと締め、2枚のタオルで周りをぐるぐるとおおうだけです。この簡単湯たんぽは、災害時の寒い時に役に立つと思います。
- ・ぼくが見つけたのは、段ボールの椅子です。作るのに必要なものは、「段ボール」「ひも」「テープ」です。作り方はふたを2つ取ってひもで固め取ったふたをテープで止めて完成です。これがあれば、椅子がない時に役に立ちます。
- ・このように、僕たちはこれまでの防災学習を通して、実際にひさいした時に、家にある物でも自分や家族の命を守る道具を手作りできることを学びました。
- ・もし、災害にあって助けがくるまでの3日間、みなさんは何を準備しますか。
- ・私たちは、災害時の非常食について学習しました。
- ・ビスコは一口で食べやすいし、味もいろいろあるから、子どもでも食べやすいし、みんなで食べれたし、みんな大好評でした。
- ・缶のパンはやわらかいから、お年寄りでも子供もみんな食べやすいです。味もいろいろな種類があるから、味にあきないです。持ち運びもらくです。
- ・乾パンは、長くもつし、大きさ的にもいいけど、硬いから、高齢者とか、小さい子供が食べにくかったし、水が欲しくなりました。
- ・アルファ米は水が欲しくならないし、食べやすいから3日間食べ続けるのによかったです。いろいろな種類があるからあきませんでした。
- ・ようかんは、食べやすいし、美味しいし、やわらかいからお年寄りでも子供でも食べやすかったです。お菓子としても食べれました。
- ・フリーズドライご飯は、おいしいし、水がほしくならないし、いろいろな味があって、なかなか飽きないから食べやすかったです。
- ・私たちは、防災食を食べる体験をし、防災食についてもっと知りたかったので調べることにしました。
- ・3日間過ごせそうな非常食品TOP3を紹介します。
- ・第1位は、携帯おにぎりです。わけは、お湯（水）を注ぐだけで手軽に食べられるからです。
- ・第2位 ビスコ わけは、保存用も5年半持つし、子供から大人まで楽しんで食べれるからです。
- ・第3位は缶パンです。わけはお年寄りでもやわらかくて食べやすいからです。
- ・その他にも、フリーズドライご飯、ようかん、アルファ米などがあります。
- ・私たちは、備蓄食品を食べ比べてみました。そこで、私たちは調べたことも生かし、備蓄食品の提案をします。
- ・最初に提案するのは、簡単にできる乾パンアレンジレシピです。乾パンは硬いし、水分をとる食べ物だと思います。紹介するのは、はちみつ乾パンです。
- ・はちみつ乾パンの材料と作り方を説明します。
材料…乾パン、クリームチーズ、クルミ、はちみつ、ミント
作り方 1 乾パン全体にクリームチーズをぬる。
2 1/4に割ったクルミをのせ、ハチミツをかける。
3 ミントを飾る。
- 乾パンは味がないけど、はちみつ乾パンは甘いのでおやつとして食べることができます。なので子供も喜びます。ほかにも、乾パンのアレンジはたくさんあります。ぜひ調べてみてください。
- ・次に提案するのは、簡単にできるアルファ米のアレンジレシピです。紹介するのは冷やし茶漬けです。冷たくておいしいですが、もちろん温かくてもおいしいです。
- ・他にもアレンジはたくさんあります。ぜひ調べてみてください。これで提案グループの発表を終わります。
- ・日詰地区には、すてきなところがたくさんあります。先週は平井邸に行って、見学やお茶会の体験をしました。
- ・そして、異聖歌さんや橋本善太さんなど、活躍した人がたくさんいます。
- ・そんなすてきな日詰で暮らす私たちがいまできること
- ・これからも日詰を守り、作っていくために、私たちが今できること、
- ・それは、日詰について、学びを深めることです。
- ・私達はたくさんの人たちと関わりながら
- ・これからも学び続けていきます。
- ・（5年全員で）学び続けていきます。
- ・これで5年生の発表を終わります。礼。

③地震について知ろう

②大雨について知ろう

①大雪について知ろう



日詰小 5年2組

【4年】

○私は復興集会で思ったことがあります。それは今ふつうの生活ができているのはとてもすごいということです。私は復興集会があるまで、今の生活ができていることがすごいこと、光栄なことだと分かりませんでした。しかし、復興集会で東日本大震災の話を聞きました。震災の時は食べ物を飲むものも生活に必要なものもなく、いつもの集会とはまったく違って、今できている生活よりとてもたいへんな生活だと感じました。これからは一日一日を大切に生活していきたいです。また、教えてもらった震災のことを忘れずに大事に生きていきたいです。

○私たちがうまれる前に東日本大震災や阪神淡路大震災などの大きな災害がありました。今回話を聞いて「こんなに悲しいことがあったのか。」と思いました。聞いているだけでかなしくなりました。今、私たちに当たり前にできていることが大震災の頃は当たり前じゃなかったと聞いて、かなしみやつらさをわかった気がします。私は毎日を大切にすごしていきたいと思いました。これからもこのように大きな災害が起こるかもしれないから、ふだんから準備しておきたいと思いました。何かできることはないか考えました。防災バックを準備する、家族との待ち合わせ場所を確認するなどのことをまずやりたいです。

○私は、復興集会に参加して、東日本大震災や阪神淡路大震災のつらさがわかりました。また、みんなでたすけあって、一日一日を過ごしていたこともわかりました。もしも、自分が大震災を体験したら、不安な気持ちになっていたと思います。でも当時の人は助け合って生きていたという話を聞いてすごいなと思いました。ふだんから私もまわりの人と助け合っていきたいです。

○心に残ったことは、一日目の夜、ご飯がお湯だったということです。理由は今ではありえないことなのでびっくりしたし、普通のご飯を食べれることにうれしいと思いました。もしも、東日本大震災のような大きな震災があったら、自分にできることを探してその場ですぐ取り組みたいなと思いました。

○災害のお話を聞いて、東日本大震災が起こったときは何をすればよいか、食べ物が少なくても、文句を言わない、つらいことがあっても皆で助け合うことが大事だと思いました。誰かが困っていたら皆で助ける。私は「奪い合えば足らず、分け合えば残る」という言葉が心に残りました。理由は奪えば、他の人の分がなくなってしまうし、分け合えば残るということなので、分け合う、ゆずるということは大事だと思いました。

【5年】

○ささえてもらったから次ささえてあげる人になるという言葉が心に残ったから、自分もそういう人になりたいと思いました。

○震災が起きると今までのことが元にもどらないことを知りました。震災が起きたら支え合いや我慢がないとできないことだとはじめて感じました。

○藤舘先生の話聞いて、食べ物や支援物資が全員分届くまで待っているというところが、やっぱり日本のよい文化で、すごいと思いました。みんなで協力して生きることをあきらめない所はまねしたいと思いました。

○震災はものをうばうだけでなく、大切なことも教えてくれるんだなと思いました。（でもおきてほしくない。）今日の話を聞いて、人のやさしさとあきらめない心を知りました。みんな困っているけれど、お互いに助け合う唐丹小学校の子はすてきだと思いました。私も人のためになれる人間になりたいです。まずは困った人が今でもいいからゼロになる世界平和をいのります。

○東日本大震災がとても大きな災害だとは聞いていましたが、あれほどの災害だと思っていませんでした。ですが、東日本大震災がきっかけとなって生まれた絆もあるんだなと思いました。

【6年】

○もしも災害にあったら、一人で解決するのではなく、協力しないと乗り越えられないということがわかりました。僕は、災害に備えて避難所の確認をしたり、災害時の食べ物を準備することができると思いました。

○「生きるとは」みんなで協力し合って、楽しい未来にしていくこと。

「人と関わることは」お互いに憎み合わないで、協力すること。

「自分にできること」災害が起きて大変なところなどに、少しでもいいから募金をする。

○自衛隊の方が妻に送ったメッセージの「自衛隊なめんなよ」というところが、心に響きました。

なぜなら、妻に対するメッセージでも言葉がきつくなるほど大変だということが分かったからです。常日頃から防災に備えることが必要ということが今一度確認することができました。

○話を聞いて、中学生はすごいなと思いました。理由は、自分の家族が危険な目にあっていたり、食べ物も少ないにも関わらず、笑顔で生活していたりして、凄いなと思いました。自分は沿岸に住んでいた時は少しの地震でも怖くて「避難しないと。」とあせっていたけど、内陸に住んでいると、海から遠いから少しの地震でも不安には思いませんでした。でも備えは大事なので内陸だからと言って危険なことはあるから、防災の準備をしていきたいと思いました。